

城下町の暮らし -米町遺跡第4地点の調査から-

1. はじめに

米町遺跡第4地点は小倉北区米町1丁目に所在します。発掘調査はホテル新築工事に伴って実施されました。調査期間は令和2年12月7日から令和3年1月25日まで、調査面積は374.05㎡です。

調査区の位置する紫川河口部東岸域は紫川によって形成された三角州であり、一帯は低く平らな地形となっています。現在は舗装などによって、なかなかその様子を見ることはできませんが、調査区を含む周辺の発掘調査で地面を掘り下げていくと、基盤層として三角州由来の黄色系砂層が確認できます。

近世になると、小倉には紫川を挟んで東西に城下町が築かれます。そして、その東側の区画を東曲輪、西側の区画を西曲輪と呼んでいました。安政年間(1854～1860)に描かれたとされる『小倉藩土屋敷絵図』と現在の調査地点を照合させると、調査区は東曲輪北側の一面にあり、「御先筒組ヤシキ」とそこに隣接する屋敷地と明地(空地)の一部に概ね相当しているものと考えられます。

2. 調査の成果

今回の調査は、調査で出てくる排土の置き場や作業スペースを確保する必要があることから、調査区を南北に二分割して行いました。このうち、南側調査区を1区、北側調査区を2区としています。

調査の結果、調査区全面に遺物包含層が堆積していることが分かりました。また、この遺物包含層を挟んで上下に2面の遺構面が確認されました。

遺物包含層上面からは1基の井戸と3基の埋甕が検出されました。井戸は板状の石材を平面六角形になるように組み合わせたものです。このタイプの井戸は、少なくとも近世の終わり頃には確認出来ませんが、今回見つかったものについては出土遺物から近代に築かれたことが分かります。埋甕には便所の便槽として用いられたものが含まれており、何らかの建物があったことが想定されますが、甕以外の遺構が残っていないため詳細は分かりません。

一方、下面からは溝状遺構1基、土坑60基、ピット59基等多数の遺構が検出されました。これらの遺構群は、周辺一帯の基盤層である黄色系砂層を掘り込んで設けられており、17世紀代、18世紀代、19世紀代と近世を通じた各時期のものが含まれている



遺跡の位置 (1/25,000)



小倉藩土屋敷絵図中における調査地点



1区上面の調査風景



2区下面全景 (南から)

ことが分かりました。近世の小倉城郭整備は初代小倉藩主である細川忠興^{ただおき}によって慶長7年(1602)に始められます。本調査区において17世紀代の遺構が確認できたことは、東曲輪の成立過程を考える上で重要な成果といえます。また、18世紀代前半～中頃を境に遺構の配置が異なる傾向があり、この頃に建物の建て替え等、土地利用の方法に変更があったことを窺わせます。

なお、この下面の遺構群は遺物包含層によって完全に覆われていますが、これはそれまでの建物を含む生活面が刷新されたことを示しています。このような大きな生活環境変化の原因については現在のところ不明です。しかしながら遺物包含層の堆積時期が、層序と出土遺物の検討から、19世紀中頃という近世から近代へと移り変わってゆく時期に相当しており、そうした社会的背景も考慮しておく必要があるでしょう。

3. 城下町の暮らし

遺跡から出土する遺物の数々は、当時の人々の暮らしぶりを検討するための重要な資料です。

調査によって検出された遺構のいくつかは、ここで暮らした人達のゴミ捨て穴と考えられます。そのうちの一つ、10号土坑からは、19世紀前半～中頃の遺物が多数出土しました。その中には、食器である磁器や陶器の碗、皿、酒器である瓶や爛徳利^{かんどくり}、調理器具である行平鍋^{ゆきひらなべ}や土鍋^{どなべ}、暖をとるための火鉢や、調理するための焜^{こんろ}、炭や灰を掻き出すための十能^{じゅうのう}などが含まれています。また、アワビの貝殻やマテガイの貝殻も90枚以上捨てられていました。

想像をたくましくすれば、これらの遺物からは、寒い日に暖をとりながら料理をつまみ、熱燗^{あつかん}を愉^{たの}しむ人の姿を思い浮べることが出来ます。つまみには焙ったマテガイも饗されたのでしょうか。アワビはお刺身になったのかもしれませんが、そこにあるのは、道具立てこそ違えども、今とあまり変わらない暮らしの風景だったのではないのでしょうか。

埋 蔵 文 化 財 通 信

埋蔵文化財調査室では、令和4年度に入って、小倉北区の室町遺跡第14地点、小倉南区の守恒遺跡第15地点、稗田川遺跡第5地点、八幡東区の山王遺跡第3地点、八幡西区の末里遺跡で調査を行いました。これらの最新の発掘情報などは、ホームページにて公開しています。イベント情報なども随時アップする予定です。是非、ご覧下さい。

なお、イベント情報は市政だよりでもお知らせしております。あわせてご利用下さい。



1号井戸検出状況(上面・南から)



3号埋甕検出状況(上面・南から)



10号土坑遺物検出状況(下面・北東から)

公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
埋蔵文化財調査室

編
集
・
発
行

〒803-0816 北九州市小倉北区金田一丁目1-3
TEL(093)582-0941 FAX(093)582-8970

北九州市市民文化スポーツ局文化企画課

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1
TEL(093)582-2391 FAX(093)581-5755

発行日 令和4年12月20日

ホームページ

北九州市の埋蔵文化財

検索